# 21［評論］『作品の哲学』

［１］　道具は手の延長であり、手の行う仕事の補助である。それに対して機械は手の代用を果たそうとする。水車小屋のａ杵つきは、最も単純な機械の例である。すなわち、杵と臼という一組の道具に対して、これをあやつる手の代用として、水力を応用した動力回路を組みあわせている。この回路は単純なもので、からくりと呼べる程度のものにすぎず、そこに「内」があるとは言えないが、①自動的な機械になれば、そこには明らかに「内」が現われてくる。典型的なものは蒸気機関車である。人はそれを見守り、石炭を炉にくべるなどの必要な配慮を加えるが、仕事そのものは機関車が行う。それは手の代用というよりも全身の代用、より正確には馬の全身の代用をつとめる機械動物である。そこには道具とはことなり一つの複雑な「内」が存在し、この「内」がこの機械の文字通り「心臓部」を形成している。しかし、その果たすべき機能が人や動物の仕事の代用であるかぎり、その形は機能を反映している。ｂ驀進する機関車の図は、まさに走る人、走る馬の姿であり、その力動性は努力の力動性である。丸い胴をめぐって走る無数の配管はさながら血管であり、車輪は足であり、車輪をつなぐシャフトは手であって、時折吹き上げる蒸気は汗である。形は機能を反映しつつ、「内」を表現している。

［２］　蒸気機関車が電気機関車に変ると、「内」はより②自律的なものとなり、我々の想像力をこばむされた領域と化してゆく。その「内」は、蒸気機関車の丸胴と配管のように形に現われることはなく、あの四角い外形は「内」にも無関係であり、機能と対応するものでもない。このような在り方は、エレクトロニクス機器において最も明らかな現象を見せている。その機能さえ外に現われてこずに、一本のコードで「外」とつながれていることが珍しくない。機能と形の断絶の典型的な表われがスイッチや押しボタンの類である。全く同じ形をした多くのスイッチや押しボタンが、全く異なる機能をはたす。そして当の機能はすべて「内」にあり、形は機能から解放されるに至っている。多くが四角い形をしているのは、商品として梱包、運送する上での都合や、いくつもの機器を連結する上での利便を考えてのことであって、「内」なる機能とは関係がない。機能より解放された外形は、もし人が望むならば、純粋な造形性の追求の場所となることも可能である。このような在り方に応じて、一般消費者向けの機器においては、「内」を考案する設計者と、「外」をするデザイナーの職分が分れてきている。

［３］　このような存在構成をもつ「第三の人工品」が藝術作品と異なることは、明らかであるように見える。作品において形と「内」は分離せず、形は人の眼差を「内」へと導く機能をもっていた。エレクトロニクス機器における形と「内」のｃ乖離は、作品のものではない。しかし、「内」を持つということは、道具に対して著しい対比をなすものであり、この点で第三の人工品は作品に近いと言わざるをえない。そして、作品において最も大切なものがその「内」であるならば、作品の「内」がエレクトロニクス機器の「内」といかに異なるかを解明しないかぎり、両者の差異もまた確かなものとは言えないであろう。特に、エレクトロニクス機器の分離した「形」と「内」とは、それぞれデザイナーと設計者の「作品」と見ることも可能であるだけに、③この弁別は極めて重要である。デザイナーの仕事は造形美術の一分野と見ることもできるから、彼のイメージを作品と見なしたところで、新たな問題が生ずるわけではない。しかし、設計者のアイデアを作品と見ることは正当なことか否か、これは作品概念の外延を確定する上で重要な要因である。建築家の設計が作品と呼ばれるのであれば、エレクトロニクス機器の新しい設計が作品と呼ばれるのは当然ではないか。それにもかかわらず、前者が創造と呼ばれながら、後者は精々発明としか言われないのは何故なのか。しかも発明と呼ばれるためには、そのアイデアが革新的なものである必要があろうから、発明という資格は極めて高度の知的生産力に対応している。従って、発明を軽度の創造と見るのは不適当であり、むしろ両者の種的な差異を考えるべきであろう。それを考える上でも鍵となるのが④「内」の差異である。

［４］　エレクトロニクス機器の「内」とは何か。それは回路である。入口があり、出口がある。入口から入った信号が、しかるべき変形をうけて出口から出てくる。この信号の通路がエレクトロニクス機器の本体である。いかなる変形を信号に施したいと望むかによって、回路は様々な複雑な在り方をする。しかし、いかに複雑なものであっても、通路であるかぎりにおいて、回路とは一つの空虚である。作品の「内」が精神的世界であり、従って一つの充実であることと、これは根本的に対立する在り方である。では「世界」とは何か。少なくとも世界が回路とは異なる点を明らかにしないかぎり、これは、［　　　］の問題にすぎないということにもなりかねない。たとえば、コンピューターは人工頭脳とも呼ばれるから、その回路を頭脳にｄギして、一つの精神的宇宙と形容することは可能であろう。逆にまた、藝術作品は美的体験に向かって開かれており、その体験の展開をプログラムしたものに他ならないから、これを一つの回路と形容しても見当違いとは言えない。そこで、コンピューターの「内」が回路であり、藝術作品の「内」が世界である所以を明らかにする必要が生じてくる。

［５］　しかしこの解明は、右のように藝術作品を回路と呼んでみたことによって、おのずからに半ばまではなされたと言ってもよい。何故なら、コンピューターの回路が、その設計者にとっても使用者にとっても、全く外なるものであるのに対して、⑤この回路は藝術家がたどり、鑑賞者があとづけてゆく経路だからである。『城』を読むとき、私はカフカの描いた不思議な世界の中にいる。私はＫと共に雪深い村の中に入ってゆく。あたかも私のまわりには雪がふり、彼方には、近くて遠い城、いくら扉を開けても開けてもそのにたどりつくことのできない城がそびえているかの如くである。このようにその中に立つことこそ作品の体験であり、世界の体験でもあるが、コンピューターの回路は、我々と無関係に機能していればそれでよいという性格のものである。すなわち、作品の「内」はその中へ我々が入ることのできるものであるのに対して、コンピューターの「内」は単なる物理的な「内」にすぎないのである。コンピューターを指して精神的宇宙と形容してみたところで、その「精神的」とは「頭脳と似た働きをする」というだけのことであり、無機的な語感をもつ宇宙という単語は使えても、世界とは呼びにくい。世界とは、我々がその中に住み、息づくことのできるような空間である。作品の内に含んでいる世界が、作者の精神によってかれたものであることは間違いない。それゆえ、その世界は作者の固有名詞をｅカンして、例えばカフカの世界とかカンジンスキーの世界とか言うわけである。これに対して回路の設計は、それがどれほど天才的なアイデアによるものであっても、通例、我々はそれを創造とは呼ばず発明と呼んで、世界の創出とは区別するのである。

●出題校

立教大学

●語　注

カフカ＝プラハ生まれのドイツ語作家フランツ・カフカ（一八八三～一九二四年）。遺作の『城』は二○世紀の代表的な長編小説の一つで、Ｋはその主人公。

カンジンスキー＝「カンディンスキー」という表記の方が一般的。ロシア出身の画家ワシリー・カンディンスキー（一八六六～一九四四年）は抽象画の創始者の一人。

■覚えておきたい語句

□５典型的…………………その特徴・性質をよく表しているさま。

□12自律……………………自分で自分の行為を制御すること。

□21按排……………………ほどよく配置したり、処理したりすること。

□25乖離……………………そむきはなれること。はなればなれになること。

□41空虚……………………内容のないこと。

◆漢字

　本文中の二重傍線部ａ～ｅのカタカナは漢字に直し、漢字は読みをひらがなで記せ。

ａ［　　　　］ｂ［　　　　］

ｃ［　　　　］ｄ［　　　　］

ｅ［　　　　］

問１　波線部の意味として最も適当なものを次から選べ。　5点

ア　勢いよく入れる　　イ　満たすために入れる

ウ　慎重に入れる　　　エ　燃やすために入れる

オ　偏りなく入れる

〔　　　〕

問２　傍線部①について、ここで言われている「内」の説明として最も適当なものを次から選べ。　6点

ア　機械が自力で作動するために欠かせない入り組んだ装置を内蔵できる空間。

イ　覆いを外したり各部分を解体したりすることで明らかになる内側の仕組み。

ウ　人間の仕事の代役を果たせるほど進化した動物の体内を思わせる複雑な構造。

エ　形状や運動として目に見えるようになる内部の動力源とその機構の働き。

オ　人間が自分の内面を投影して動物に喩えてみたくなるような機械の特性。

〔　　　〕

問３　傍線部②について、ここで言われている「自律的な」とはどのようなことか。その説明として最も適当なものを次から選べ。　6点

ア　人間の配慮に依存しない

イ　人間の想像力が及ばない

ウ　機能が外形を規定しない

エ　外形が造形的表現を促す

オ　外形が規格化されている

〔　　　〕

問４　傍線部③について、「この弁別」とはどのようなことか。その説明として最も適当なものを次から選べ。　6点

ア　第三の人工品の「形」と「内」が分離した事情を理解すること。

イ　デザイナーの作品と設計者の作品の質の違いを見分けること。

ウ　単純な道具と複雑な機械の存在構成を対比して説明すること。

エ　作品とエレクトロニクス機器の種差を厳密に確定すること。

オ　作品の「内」と第三の人工品の「内」の差異を認識すること。

〔　　　〕

問５　傍線部④について説明している箇所を本文中から六〇字以内で抜き出し、最初と最後の五字を答えよ。【読みのセオリー　6点

［　　　　　　　　　　］〜［　　　　　　　　　　］

問６　本文中の空欄に入る言葉として最も適当なものを次から選べ。　6点

ア　趣味　　イ　名称　　ウ　形式

エ　推論　　オ　感覚

〔　　　〕

問７　傍線部⑤について、「この回路」とはどのようなものか。その説明として適当なものを１、適当でないものを２として、それぞれ番号で答えよ。　3点×5

ア　作品概念を解明するためにコンピューターのプログラムに喩えられた藝術家の頭脳の活動。

イ　藝術家が精神的な形式を与えて作品を創造するために用いる物理的な素材の集積。

ウ　鑑賞者がその後をたどって追体験しなければならない藝術家自身の美的体験の過程。

エ　藝術家が創造して鑑賞者がその中で美的体験を重ねてゆくことができる精神的世界。

オ　その人の固有名詞をつけて誰々の世界と呼ぶのに値するような天才的な藝術家の精神。

ア［　　　］イ［　　　］ウ［　　　］エ［　　　］オ［　　　］

【解答】

漢字　ａきね　ｂばくしん　ｃかいり　ｄ擬　ｅ冠

問１　エ

問２　エ

問３　ア

問４　オ

問５　作品の「内〜にすぎない（60字）

問６　イ

問７　ア＝２　イ＝２　ウ＝２　エ＝１　オ＝２

【現代文読解用語200】

問　次の言葉の意味をそれぞれ後から選べ。

166精進（　　）

167風化（　　）

168皮相（　　）

169逸脱（　　）

170企図（　　）

171確執（　　）

172（　　）

173（　　）

174相殺（　　）

175（　　）

176（　　）

177（　　）

ア　本筋からはずれること。

イ　思いがけず出会うこと。

ウ　損得などを互いに差し引いて帳消しにすること。

エ　決断がつかず迷うこと。

オ　計画すること。

カ　いつのまにか記憶や印象が薄れていくこと。

キ　うわべ

ク　遠慮すること。

ケ　互いに自分の意見を主張して譲らないこと。

コ　落とし穴

サ　よくかみ砕くこと。

シ　一生懸命努力すること。

【解答】

166シ　167カ　168キ　169ア　170オ　171ケ　172コ　173ク　174ウ　175サ　176エ　177イ

【読みのセオリー】

★対比的な説明に着目する

　対比は、二つのものを比べ、その違いを際立たせる説明の手法である。したがって、何と何が対比されているか、どのような違いをそこに見ているか、という点に注意を向けて読み取ることが大事になる。

　ここでは、「内」があるものとないものというところから、対比的な説明が始まり、コンピューターの「内」と藝術作品の「内」の違いへと論が展開している。

〔要　約〕

「内」のあるものとないものの比較から、エレクトロニクス機器と藝術作品の「内」の差異を考えるところに論は展開している。

　　　　　↓

　エレクトロニクス機器の「内」は、回路であり、単なる物理的な「内」にすぎないが、藝術作品の「内」は、作者の精神によって拓かれた世界であり、鑑賞者である我々がその中に住み、息づくことのできる空間である。（99字）

〈筆者＆出典〉佐々木健一（ささき・けんいち）一九四三（昭和18）年東京生まれ。美学者、東京大学名誉教授。東京大学文学部フランス語フランス文学専修課程卒業。同大学院人文科学研究科美学藝術学博士課程修了。著書に『せりふの構造』『美学への招待』『日本的感性―触覚とずらしの構造』などがある。本文は、『作品の哲学』（東京大学出版会、一九八五年）より。

☆「セオラム　補充問題」問題は次の３種類があります。

　＊差し替え　　　……　当該の問と差し替えるもの

　＊追加　　　　　……　同じ問いで追加された問題

　＊新問　　　　　……　追加が可能な新たな問題

新問

２　蒸気機関車が電気機関車に変ると、「内」はより②自律的なものとなり、我々の想像力をこばむ鎖された領域と化してゆく。その「内」は、蒸気機関車の丸胴と配管のように形に現われることはなく、あの四角い外形は「内」にも無関係であり、機能と対応するものでもない。このような在り方は、エレクトロニクス機器において最も明らかな現象を見せている。その機能さえ外に現われてこずに、一本のコードで「　１　」とつながれていることが珍しくない。機能と形の断絶の典型的な表われがスイッチや押しボタンの類である。全く同じ形をした多くのスイッチや押しボタンが、全く異なる機能をはたす。そして当の機能はすべて「　２　」にあり、形は機能から解放されるに至っている。多くが四角い形をしているのは、商品として梱包、運送する上での都合や、いくつもの機器を連結する上での利便を考えてのことであって、「内」なる機能とは関係がない。機能より解放された外形は、もし人が望むならば、純粋な造形性の追求の場所となることも可能である。このような在り方に応じて、一般消費者向けの機器においては、「　３　」を考察する設計者と、「　４　」を按排するデザイナーの職分が分れてきている。

空欄１〜４「　」に入る組み合わせとして正しいものを選び記号で答えよ。

ア　１内　　２内　　３外　　４外

イ　１内　　２外　　３外　　４内

ウ　１外　　２内　　３内　　４外

エ　１外　　２外　　３内　　４内

オ　１外　　２外　　３内　　４外

答　ウ